

儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和5年度の主な実績等

1 大規模水稻経営体の育成

○大規模水稻経営体数

○目標の達成状況

指標名	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
100ha以上 ※100ha未満でも粗収益 1億円以上の経営体を含む。	8経営体	11経営体	12経営体
50～100ha	36経営体	35経営体	37経営体



農地集約に向けた経営体同士の話し合い

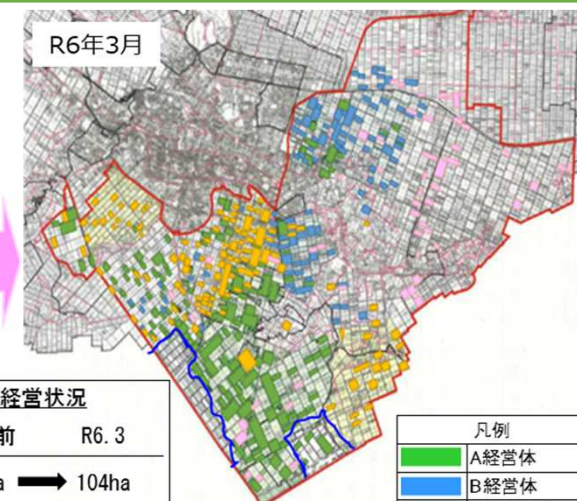
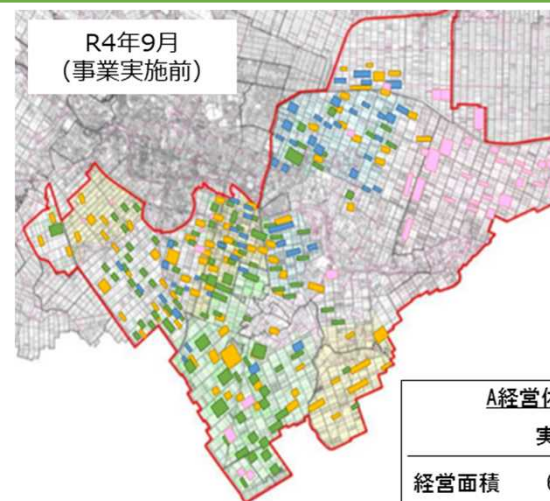
○R5年度の実績や主な取組

- ・新たに4経営体が100ha以上の経営面積となった。（内訳：龍ヶ崎市2、稲敷市1、河内町1）
- ・新たに5経営体が50ha以上の経営面積となった。（内訳：土浦市1、龍ヶ崎市2、稲敷市2）
- ・省力化のため直播栽培導入や経営体への農地集積を支援。
- ・農地集約に係る研修会の開催や経営体同士の話し合いの場を設定する等し、農地集約を支援。

○メガファーム事業体の集積面積及び米生産費の削減率（龍ヶ崎市東部地区）

○目標の達成状況

指標名	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
集積面積	69ha	80ha	104ha
米生産費 (60kg当たり)	現状把握	10%減	9.1%減



A経営体の経営状況		
	実施前	R6.3
経営面積	69ha	104ha
集約率	42%	89%

凡例	
■	A経営体
■	B経営体
■	C・D経営体
■	E経営体

○R5年度の実績や主な取組

- ・周辺地権者への個別巡回等により集積が進み、A経営体とE経営体が100haの集積（メガファーム）を達成。
- ・周辺耕作者との農地交換により、A経営体集約率は42%→89%に大幅に向上。
- ・集積・集約が進んだ結果、作業効率が向上し、米生産費が10,548円/60kg（R4）→9,586円/60kg（R5）と9.1%削減。

メガファーム事業体の集積・集約状況（事業実施前とR6.3時点の比較）

儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和5年度の主な実績等

2 日本一れんこん産地における持続可能な儲かる農業の展開

○販売金額 1 億円以上の経営体数

○目標の達成状況

指標名	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
販売金額 1 億円以上の経営体数	3 経営体	3経営体	4経営体



ドローン活用に向けた実演会

○R5年度の実績や主な取組

- ・ 支援対象の 5 経営体に対し、販売額の向上に向け、大型ドローン（追肥作業用）の導入、経営規模拡大に対応するための出荷調整施設導入、ハウス栽培での温度管理や露地栽培での病害虫対策、低コスト施肥技術を指導、贈答用箱を活用した高単価での販売に向けた規格表の作成、急拡大するほ場面積に対応するためのほ場管理システムの活用等について支援。
- ・ これらの支援活動により、新たに 1 経営体が販売額 1 億円を達成し、対象 5 経営体のうち 4 経営体が販売金額 1 億円以上を達成。

○黒皮症被害程度指数

○目標の達成状況

指標名	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
黒皮症被害程度指数	17.9	13.6	17.8



○R5年度の実績や主な取組

- ・ R4年度に策定した市町村別防除対策実施計画の改定を支援。管内 7 市町村で計画が改訂され、計画に基づき黒皮症被害把握のための実態調査や防除対策に取り組んだ。
- ・ J A と連携し、生産者が集まる機会を活用して黒皮症に係る講義や情報提供を実施。
- ・ J A 部会等を対象にセンチュウ検査を実施し、防除対策を指導。また、種バスのセンチュウ検査を実施し、結果票を生産者に配布、健全な種バスの使用、健全な種田の確保について指導。
- ・ かすみがうら市では、休作の効果や経済性を調査、指導し、休作により甚発生ほ場のセンチュウ数が大きく減少し翌作での生産が可能になった。また、J A と連携し、センチュウ汚染のない優良系統の原種増殖ほを 1 筆 10 a から 2 筆 22 a に拡大、80 戸まで供給が可能となった。



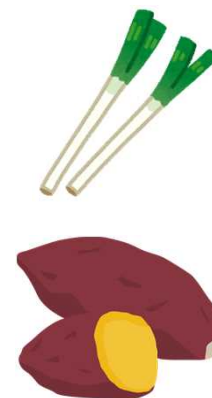
黒皮症防除対策の生産者への周知

3 地域農業を牽引する儲かる園芸経営体の育成

○販売金額 1 億円経営体の育成

○目標の達成状況

指標名		R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
ねぎ	集積面積	15.3ha	18ha	19.1ha
ねぎ（企業参入）	集積面積	9.2ha	11ha	12.7ha
かんしょ	集積面積	10ha	15ha	14.5ha
グラジオラス	採花率	60%	65%	55%



○R5年度の実績や主な取組

（ねぎ）

- ・3.8haの農地を集積。将来の輸出による販路拡大を見据え、商談用パンフレットや英語版HPを作成すると共に、商談会に出展し取引先確保に取り組んだ。

（ねぎ：企業参入）

- ・3.5haの農地を集積。個別巡回や農業学園ネギ講座にて病虫害防除等の技術指導や栽培技術習得を支援したことで、適期作業の実施につながり、生産効率及び販売金額が向上した。

（かんしょ）

- ・4.5haの農地を集積。省力化、労働力分散、輪作を目的にばれいしょ及びニンジンの導入を推進した結果、ばれいしょ6.0ha、ニンジン4.0haが作付けされ、経営体全体（鹿行地域での作付け含む）で販売金額1億円を達成。

（グラジオラス）

- ・遮光やかん水について支援したものの、7、8月の高温・干ばつの影響が大きく、採花率が低下した。
- ・水田畑地化事業を活用して暗渠排水を整備し排水条件を改善したことにより、5～6月の秀品率が向上（R4秀品率71% → R5秀品率77%）した。
- ・半自動移植機の導入を支援し、繁忙期においても安定して定植することができた。



商談会への出展を支援（ねぎ経営体）



グラジオラス半自動移植機の導入支援

4 水田の有効活用の推進

○水田高収益作物の導入面積

○目標の達成状況

指標名	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
水田高収益作物の導入面積	1,548ha	1,617ha	1,723ha



水田高収益化現地検討会の状況
(グラジオラス)

○R5年度の実績や主な取組

- 水田高収益作物の導入にあたっては、地域農業再生協議会やJ Aと連携した生産者向け説明会や現地検討会を開催し、経営所得安定対策事業や水田畑地化事業の活用、企業参入等による高収益作物の導入を推進（導入作物は、面積が多い順に、れんこん、ネギ、かんしょ、グラジオラス等）。
- 品目転換を推進し、小麦やソバの水田での作付けが拡大。

○新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS用稲、新市場開拓米（輸出用米））の導入面積

○目標の達成状況

指標名	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
新規需要米の導入面積	5,864ha	5,875ha	6,029ha



新規需要米の作付推進
(生産者向け説明会の開催)

○R5年度の実績や主な取組

- R 5 年産新規需要米の作付推進にあたり、市町村及び地域農業再生協議会と連携し、生産者向け説明会の開催を推進した結果、石岡市、龍ヶ崎市、守谷市、稲敷市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町の 8 市町村で開催に至った。
- 新市場開拓用米（輸出用米）は、R4年産面積89.9haに対し、R5年産は198.8haと2.2倍に拡大した。また、新市場開拓用米における集荷業者との新規契約が増加し、R5年産では6経営体（17.2ha）が新たに取組んだ。
- WCS用稲は稲敷市を中心に拡大が進み、R4年産WCS用稲150haに対し、R5年産は164.8haとなった。